

在宅輸血に関するアンケート調査の実施について（案）

1. 趣旨・目的

新型コロナウイルス感染症の影響で、在宅輸血の件数が増加する可能性がある。

また、国が「血液製剤の使用指針」を公表し、赤血球輸血の適正を図っている中で、むしろ血小板輸血が増えているといった現状もある。

このため、県内で行われている在宅輸血の現状を把握し、在宅輸血の安全性の向上と、その担い手である医療機関（医療従事者）の不安解消について検討する一助とする。

2. 調査対象

「在宅輸血」で使用する血液製剤を広島県赤十字血液センターから購入したことがある県内の医療機関。

3. 調査方法

次の手順に従って実施する。

- (1) 広島県電子申請システム上にアンケート回答用ページを開設する。
- (2) 広島県血液センターから、調査対象施設情報（メールアドレス）を提供いただく。
- (3) アンケートの依頼文書（※）を調査対象施設に送信する。

※ 広島県合同輸血療法委員長名、アンケート回答ページのURL（QRコード）を掲載

- (4) 医療機関がアンケートに回答 ※ 回答終了とともに結果が自動集計
- (5) アンケート分析

4. スケジュール

- 7月 アンケート骨子承認（at 委員会）
設問作成に着手（幹事、血液センターから意見をいただき修正）
- 8月 設問完成
アンケート回答用ページ開設
関係医療機関へアンケート回答を依頼
- 9月 アンケート回答締め切り
集計・分析開始
- 11月 結果報告、修正等
- 12月 最終報告 ⇒ 各委員に周知

5. アンケート内容（骨子）

次ページのとおり。

アンケート内容（骨子）

1. 在宅輸血の実施歴

実施回数（期間を指定：○年○月～△年△月），使用血液製剤の種類

2. 実施判断，従事者

在宅輸血必要性の判断，訪問職員（職種），訪問看護ステーション等との連携

3. 輸血対象者

患者の年齢，疾患，輸血回数

4. クロスマッチ

実施方法

5. 輸血の実際

所要時間，患者の状態（貧血等の有無），インフォームドコンセントの実施状況，穿刺・抜針，患者の観察，副作用

6. 輸血用血液，検体

各種血液製剤の保管方法，運搬方法

7. 自由意見

在宅輸血の課題，行政や医療関係団体への要望，患者（家族）に関すること，設備・スタッフ など